

# SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：2010年12月20日(月)

地域企業紹介 その 10  
株式会社コンタクト

## 顧客との『コンタクト』に 社員一丸となり挑戦していく

相模原市の上溝を拠点に、半導体ウエハー容器の全自動洗浄装置等を手がけている株式会社コンタクトの田島社長を訪ねました。

半導体ウエハー容器とはFOUPと呼ばれているもので、半導体を製造する材料であるウエハーを収納し搬送するケースのことである。コンタクトは全自動洗浄装置の分野で世界シェアNO. 1の企業である。

創業前、田島社長は工場等で使われる機械の設計や施工を手がける会社で半導体容器の洗浄装置の開発に取り組んでいた。当時は、半導体ウエハー容器に関する衛生面は現在ほど重要視されていなかったため、事業化までには至らなかったそうである。しかしながら、田島社長以下、同じ志を持つ創業メンバーは、「容器の高度な洗浄が必要とされる時が来る。」と確信し、平成15年に独立した。

創業時の熱心な事業への取り組みもあり、当時の人気ゲーム機が開発されていた工場で採用されたことがきっかけとなって、CCD関連の工場でも続いて採用される等、順調な滑り出しとなった。

会社名の『コンタクト』は、たくさんの方と出会いたいとの思いから命名し、一期一会に由来する。田島社長の基本姿勢は、絶えずユーザー重視である。お客様が望む以上の品質・価格等、あらゆる面で妥協が無い。この姿勢を支えるのは、コンタクトの社員達であると田島社長は熱く語る。平均年齢は40代と比較的若く、失敗を恐れずに新しい事にチャレンジし続けている。・・・紙面2Pへ

ウェブサイト：<http://www.e-contact.co.jp>

株式会社コンタクト 代表取締役 田島 敏行  
所在地：相模原市中央区上溝2259-3 創業：平成15年8月  
従業員数：20名 資本金：1,000万円 前期売上高：約8億円  
事業内容：半導体ウエハー容器の全自動洗浄装置、各種生産設備機械、各種検査装置、各種半導体関連装置等の設計・製作及び輸入販売

(表面からつづく)

その代表例が、2008年にリリースされた「CFC330」という装置である。これまでの半導体ウエハー容器の全自動洗浄装置の概念を変えるべく、高度なスペックだけでなく、コスト面でも圧倒的な優位性を保っている。最近では、品質証明のため欧州規格（CEマーク）を習得する等、その動きは積極的である。



セミコンジャパン2010の展示会

現在は、これまで培ってきたノウハウを活かし、半導体以外の分野にも進出するべく、たゆまざるチャレンジを続けている。田島社長以下、コンタクトは時代の先を見据えていると感じた。



300mm F O U P 内面のパーティクルを自動測定/全量測定により高信頼性を維持/装置内のパーティクルを常時監視/アラーム警報/省力設計/省スペース化/全自動処理 (AMHS対応)・OHT, AGV, RGV対応/各種 SEMI 企画に準拠

## 「SIC・KSPフォーラム2010」レポート

相模原市が政令指定都市へ移行したことを記念し、株式会社ケイエスピーと SIC の主催によるフォーラムを、“モノづくりベンチャー・中小企業の生き残る道”をテーマに、11月19日（金）、杜のホールはしもとにて開催いたしました。

当日は、多くの方々にご参加いただき、KSP・SIC 共に心より感謝申し上げますとともに、今回開催されました内容をご紹介します。

基調講演では、神戸国際大学経済学部 中村智彦教授 \* が、「モノづくりベンチャー・中小企業に期待する」と題し、次のような提言をされました。

周知の通り日本経済の構造は大きく変化している。昨今の経済の閉塞感には地域間にも質的な違いがあり、大都市部はまだまだ経済的活力は残っているのに対して、地方部では悲観的にならざるを得ない状況が続いている。

大企業の大規模工場を誘致できれば、20年、30年は地域経済が安泰であったのは一昔前のことである。いまや数年のサイクルで技術革新が起こり、工場そのものが海外へ移転することも多い。海外の情勢も急速に様変わりしており、日本が先端に在るという認識はもはや通用しない。加えて、少子高齢化の影響は大きく、我々が経験したことのない時代に入ったことを認識しなくてはならない。

「プロセス・イノベーション」は今まで日本企業のお家芸であった。しかし、今求められているのは「プロダクト・イノベーション」である。ものづくりベンチャーに期待されることは作り上げられたマニュアルではなく、市場ニーズの

変化を捉え、それを充足するための新たな価値創造である。成功体験にしがみつくなのではなく、これまでの失敗、つまり“過去の未完成”の中からも新たな価値創造が展開されることを期待している。」

次にパネルディスカッションでは、中村先生がコーディネータを務める中、パネリストとして SIC 入居企業の（株）グローバルヘルス 代表取締役 田中寿志氏、動物アレルギー検査（株）代表取締役 増田健一氏及びサイエナジー（株）代表取締役 元田良一氏の皆様が登壇され、創業から現在までの軌跡、経営資源（人材、技術・知財、資金）の調達方法や苦労した点、起業家型人材像への思いなどについて活発な意見交換が行われました。

事業内容や起業に至った理由は三者三様ですが、三名に共通していることは、独自の強みと社会に対する使命感が明確であったこと、ベンチャー企業として最も苦労するのは資金面であるが、様々な局面で多くの協力者によって支えられてきたこと、そして事業継続のためには市場ニーズをしっかりと捉えることでした。

最後に、起業を検討している方は、自分が起業する必然性を感じ、リスクに立ち向かう強い意志があれば是非挑戦して欲しいと、後輩起業家へエールを送られました。

日時 2010年11月19日 15:00-19:00  
会場 杜のホールはしもと多目的室  
参加者数 85名



中村智彦先生



田中寿志氏



増田健一氏



元田良一氏

\* 神戸国際大学経済学部 中村智彦教授  
地域経済・中小企業研究の専門家、中小企業間のネットワーク構築や地域経済振興プロジェクトに数多く参画するとともに、日本テレビ「世界一受けたい授業（社会科工場見学）」に出演。

## 企業をサポートし隊!!

株式会社浜銀総合研究所 経営コンサルティング部  
主席コンサルタント 寺本明輝

### 月曜日に会社に行くのが楽しいですか

私は、講演の場をいただくと「皆さんは、月曜日に会社に行くのが楽しいと感じていますか」とよく質問しています。参加者が50人の場合、「楽しい」と答えていただける方は、通常4-5人といったところでしょうか。遠慮して手を挙げない方もいらっしゃると思いますので、実際のところはわかりませんが、職業柄、数百の企業の現場を覗いてきた経験から申し上げますと、仕事・職場を楽しんでいる方は、残念ながら必ずしも多くないと感じています。

企業の変革には、戦略(Re-structuring)と仕組み(Re-engineering)、そして社員の意識の集合体である風土(Re-minding)の三位一体の取り組みが必要となります。「二流のプランと最上の実行は、最上のプランと二流の実行よりも常に優れている」という言葉がありますが、どんなに優れた戦略や仕組みがあっても、そこで働く社員のやる気がみられない、すなわちモチベーションが低い場合は、当然のことながら高いパフォーマンスは期待できません。モチベーションについての研究には

様々なものがあります。モチベーション理論は、「人を動機づけるものは何か」といった欲求そのものに焦点を当てた《内容理論》と「人はどのように動機づけられるか」といった欲求そのものよりも、なぜ欲求が生まれ、どのようなプロセスで行動するのかを説明する《過程理論》に大別できます(図表参照)。これらの研究によれば、働く人は様々な欲求をもっており、また欲求が行動につながるプロセスにも多様なパターンがあることがわかります。そこで、自社で働く人の欲求を把握し、その欲求に応じたインセンティブを的確に与えることが、人のやる気と努力を引き出し、高いパフォーマンスを生み出すために重要となります。

インセンティブには、大きく分けて五つあります。  
○第一は、給与、賞与などの金銭的インセンティブ。  
○第二は、人を評価して地位や権限や名誉を与える評価的インセンティブ。  
○第三は、上司や仲間の個性や魅力ある

いは組織風土との親和性などにより帰属意識を高める人間的インセンティブ。  
○第四は、経営理念や経営者の思想への共感により組織へのコミットメントを高める理念的インセンティブ。  
○第五は、仕事の達成など組織への貢献において、自分を活かせると強く感じることができる組織の状況を創り出す自己実現的インセンティブです。

これらのうち、私たちは、金銭的あるいは物質的報酬について目を奪われがちですが、「何のために働きたいのか」「誰と一緒に働きたいのか」といった精神的報酬にも注目しなければなりません。ややもすると青臭いと思われがちな精神的報酬について、経営者と社員が共に考え、話し合い、会社の目指すべき姿と働きがいの方向性を擦り合わせていくことがモチベーション向上にとって大切なプロセスとなります。これらのプロセスを通じて得た気づきにより、マネジメントの仕方も社員の働き方も変わってくると、月曜日に会社に行くのが待ち遠しくなってくるかもしれません。

### 代表的なモチベーション理論

	代表理論	キーワード
内容理論	マズローの欲求段階説	生理的欲求、安全欲求、愛情欲求、尊厳欲求、自己実現欲求
	アルダファのERG理論	存在欲求、関係欲求、成長欲求
	ハーズバーグの2要因理論	衛生要因、動機付け要因
過程理論	マクレランドの欲求理論	達成動機、権力動機、親和動機、(回避動機)
	ポーター＝ローラーの期待理論	期待(努力→個人的報酬)、主観的価値
	ロックの目標設定理論	難易度の高い目標、明確な目標、フィードバック
	アダムスの公平理論	インプット、アウトプット、比較他者
	ジョン・ダラー＝ニール・ミラーの反応強化理論	動因、手がかり、反応、強化(報酬)



ち とってもとっても ちいさな旅  
宮ヶ瀬からメリークリスマス!

橋本から車で30分。暗闇の中、宮ヶ瀬湖畔に突如現れる30mのジャンボクリスマスツリー。335mの釣り橋や公園内もイルミネーションで彩られとてもきれいです。点灯は12月26日までの17時から23時。会場は、華やかなイルミネーションと食べもの、飲みもの、おみやげの出店でいっぱい。土日はたいへん混みますので、平日に行くのがおすすめです。ぜひ、家族や会社の皆さんを誘ってクリスマスのひと時を楽しんでください。

思い当たる項目が2つ以上ある場合は、あなたの会社と社員の健康度を一度チェックされることをおすすめします。



## 気になりませんか？ 会社の健康度、社員の健康度

### SICヘルスサイコロジー研究所オープニングセミナー

2011年 (平成23年) **1月19日(水)**

【場所】さがみはら産業創造センター 会議室

【時間】15:00～17:30

【定員】20名 (定員になり次第締め切らせて頂きます)

【講師】石川利江 (桜美林大学健康福祉学群教授) / 松田与理子 (ヘルスサイコロジー研究所長)

【対象】企業経営者または総務ご担当者

【主催】桜美林大学健康心理・福祉研究所 / SICヘルスサイコロジー研究所 / 相模原市

お申込みは、  
SIC ホームページを  
ご覧ください。

**職**場のメンタルヘルスの悪化が社会問題となっている今日、「心身の健康に黄信号が点滅してる従業員の早期発見と予防」、「青信号が点灯している従業員の健康維持増進」は企業にとって重要な課題です。桜美林大学健康心理・福祉研究所とさがみはら産業創造センターのコラボレーションにより誕生したヘルスサイコロジー研究所は、健康心理学研究を基盤に、企業の生産性向上につながる従業員の健康予防・維持・増進を目的とした活動を行っています。

オープニングセミナーでは、会社と従業員の健康度測定、結果評価、改善方法を簡単なワークも取り入れご紹介します。この機会にぜひご参加ください。

## 12月 SIC イベントカレンダー

2010年12月～

2011年1月19日(水) SICヘルスサイコロジー研究所オープニングセミナー

1月19日(水) 協創マッチングフォーラム(東京・丸の内)

2月5日(土) いい会社の魅力を「知る/伝える」ライティング講座

2月9日(水)～10日(木) 企業取材ツアー



入居企業を募集しています。

SIC 空室情報 (12月20日現在) SICまでお気軽にお問合せください。(資料: 共益費込み)

	部屋	空室数	賃料(月額)
SIC-1	ラボ	94.5㎡ 2 ※1	235,515円
SIC-2	オフィス	50.2㎡ 2 ※2	164,850円

※1 一室: 2月中旬頃から入居可。一室: 3月中旬頃から入居可。 ※2 3月中旬頃から入居可。



report  
展示会レポート

## 「産業交流展2010」



国内最大級の中小企業の総合展示会「産業交流展2010」が去る11月10日(水)～12日(金)に東京ビッグサイトにて開催されました。

(財)相模原産業振興財団は、毎年行っている国内見本市への相模原ブース出展事業において、本年度は異業種交流型の展示会としては国内最大級の規模を誇る産業交流展に「相模原ブース」を開設しました。市内中小企業と相模原ブースの出展を合わせて行い、企業の販路開拓の促進と相模原市の情報発信を行うものです。

3日間で5万人を超える来場者があり、今回、「相模原ブース」は向かい合わせでの配置で、相模原通りが出来て賑わいを見せていました。

出展企業20社のご紹介

松永商工(株)、(株)コバヤシ精密工業、ユタカ精工(株)、相模螺子(株)、(株)マイクロキャッツ、(有)共伸テクニカル、大島機工(株)、(有)河野製作所、アイルドリーム(株)、エイト技工(株)、(株)共立、(株)ザック、城山工業(株)、アイフォーコム(株)、アート電子(株)、(株)コンタクト、(有)泉田工業、(有)アキモト印刷、(有)サーフクリーン

(順不同・敬称略)

2010年のSICは、Desk@がスタートするなど、色々な方との出会いがあった年でした。

皆さんは、如何でしたか。来る2011年もまた、まだお会いしていない方々と出会える年になるものと思います。年が明けて2月には、学生のための「いい会社の魅力を見る/伝える」ライティング講座と企業取材ツアーを行います。知るためには、動かなければならない基本に立ち返るいい機会だと思います。(広報担当)

編集後記

★ご意見・ご感想をお待ちしています。

(株)さがみはら産業創造センター(SIC) 〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21  
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077 E-mail: koho@sic-sagamihara.jp